

## ～腸チフス患者の発生について～

- 県内で腸チフス（3類感染症）の患者が確認されました。県内では平成26年以来11年ぶりの発生となっており、記録が残っている平成18年以降の発生は累計5件です。全国では今年31件（第51週：12月21日時点）報告されています。
- 腸チフスは、感染したヒトの便や尿に汚染された水や食べ物を摂取することで感染します。国内で報告される患者の多くが海外で感染したと推定されています。
- 腸チフスが流行している南アジア、東南アジア、アフリカ、カリブ海、中央及び南アメリカなどの地域に渡航する場合、渡航前の予防接種が推奨されることがありますので、医師に相談しましょう。
- また、現地では、加熱された食品を摂取し、生水や生野菜等は避けるとともに、食事前の手洗いを徹底しましょう。

## &lt;患者の概要&gt;

（1）患者：男性（20歳代）、玉名市在住

（2）職業：農業

（3）症状：高熱、脾腫、下痢

（4）経過

11月：インドネシアに滞在。

12月14日：発熱あり。

12月20日：高熱が続いたため、A医療機関を受診。

12月22日：A医療機関からの紹介でB医療機関を受診し入院。

脾腫、下痢症状あり。

12月25日：保健環境科学研究所での検査の結果、腸チフス陽性であることを確認

（お問い合わせ先）

健康危機管理課 感染症対策班

担当 松本、徳永

電話 096-333-2240（直通）（内線33154）

（裏面あり）

＜参考＞腸チフスとは

【感染経路】

チフス菌による感染症で、主に、感染したヒトの便や尿に汚染された水や食べ物を摂取することで感染します。南アジア、東南アジア、アフリカ、カリブ海、中央および南アメリカ等の地域で見られます。

【症状】

潜伏期間は7日～14日で、発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感などの症状を発症します。39°Cを超える高熱が一週間以上続き、比較的徐脈（熱が高い割に脈が遅い）、バラ疹（胸や腹部の淡い発疹）、脾腫が出現することがあり、重症例では意識障害、難聴などが見られることもあります。腸出血、腸穿孔といった合併症を起こすことがあります。

抗菌薬の投与による治療が行われます。

【感染予防】

- 流行地域への渡航前にワクチン接種を検討すること。
- 流行地域では、加熱された食品を選び、生水、生野菜等は避けること。
- 食事前の手洗いを徹底すること。

【患者報告数の推移】

年次	R2	R3	R4	R5	R6	R7
熊本県	0	0	0	0	0	1※1
全国	21	4	16	39	42	31※2

※1：本日（12/26）時点

※2：第51週（12/21）時点

【お願い】

報道機関各位におかれましては、個人情報の保護の観点から、患者及び患者家族等について、本人等が特定されることがないよう、各段の御配慮をお願いします。